

高松市中行進で「ウクライナに平和を・核兵器なくせ」アピール！！

コムコム会館前に三々五々と参加者が集まってきます。今日は、最後まででの行進者が9割。みんな「その気」で集まりました。小池和美平和歯科事務長は、いわさきちひろを引き合いに、ウクライナを念頭に「どの子どもも平和を願っていると」強調し、核兵器をなくすために頑張ろうとあいさつ。また山口逸郎通し行進者（有志参加）は、3年の念願がかなったが、香川県とは、さだまさし主演の「翔ベイカロスの翼」の制作時に来高の経験を語り、行進の先頭で出発。

終結集会での多彩な発言相次ぐリレートーク！！

岩部乃之県原水協筆頭代表：行進は3年ぶりです。5月22日愛媛県境までとなるが、元気に頑張ろうと呼びかけ

藤澤義輝県労連事務局長：沿道の往来も多くアピールになった。ウクライナ侵攻以降、6・9行動の署名も良くなった。署名行動で、日本政府を追い詰めようと呼びかけ

窪添国土交通労組代表：私たちは戦争が始まれば否応なく参加を強制される立場とし、労働者として戦争の奉仕者にはならないと決意表明し、戦時には道路も港も壊され気象は機密事項になることを自覚して運動していくと決意し挨拶とした。

十河浩二高教組執行委員長：77年前6月に国連憲章で国際秩序の確立、7月には原爆が誕生したがこの2つのどちらを取るのかが問われていると指摘。この真逆の選択で私たちは国連憲章で「核のない世界」を実現しようと呼びかけ。今学校現場での教師の過密労働の実態から、軍事でなく福祉・教育の充実を強調。

藤田茂国民救援会代表：青年時代の平和行進を思い出したと、当時の行進は署名を取り、カンパを集め盛大な行進だったと述懐し、引き続き頑張ろうと呼びかけ。

藤澤やよい高松市原水協理事：今年の行進は、ウクライナへの連帯を念頭に一步一步積み上げて、世論形成を強めようと呼びかけ。TPNW批准で二度と戦争を繰り返さないため、100年間戦争反対貫いた共産党の役割果たすと決意表明。

山口逸郎通し行進者（有志参加）：制作した「一步でも二歩でも」の中で、畑田重夫氏が「平和行進は宣伝・組織者である」と指摘し、念願の「お遍路行進」が実現したが、お遍路者の「同行二人」を私は、胸に吊り下げた、滋賀県の全盲者星野さんが103羽で作った「平和」の折鶴と行進しているとし、これから広島・長崎の「世界大会」成功をめざし行進すると決意し、大会で会いましょうと呼びかけ。

